

この度、ご質問状をいただき心より感謝申し上げます。改めまして、箕面地区新キャンパスの開設おめでとうございます。世界の動きがますますグローバル化する中で、大阪大学のさらなるグローバル化は最重要項目であり、外国語学部、言語文化研究科、日本語日本文化教育センターを今後どのように位置づけていくかは、私のビジョンの中で最も重要なミッションと考えております。その観点から、ご質問にお答えさせていただきます。

大阪大学総長候補者 澤 芳樹

質問1 大阪大学における教職員の業務負担増について

大阪大学における教職員の業務負担についてどのようにお考えでしょうか。昨年度はコロナ禍で多くの臨時の業務が発生しましたが、ここでは、それだけでなく、労働時間削減等にむけて、総長の任期中にどのように取り組む予定かをお聞かせください。また、非常勤職員の5年雇い止めについて、何かご意見がありましたら、お聞かせください。

箕面地区の素晴らしい新キャンパスで、研究に教育に先生方のさらなるご活躍を祈念しております。一方で、ご質問のように、言語社会専攻および外国語学部においては、業務負担増も含めた労働環境の課題が山積みされたままであることも理解しております。なかでも3つの教育に関わる課題と働き方改革がとくに重要であると認識しております。

- ① 言語社会専攻および外国語学部の非常勤講師雇用費の削減問題
- ② 特任外国人教員の雇用問題
- ③ 外国語学部専任教員のポスト問題
- ④ 労働時間削減に向けた教職員の働き方改革

以上の課題は、留保ポスト削減制度以来の教員ポストの削減と人件費の削減によるものと認識しております。私は所信表明で書いておりますように、社会的評価（THE世界ランキング等）が低下し勢いを失った大阪大学を復活させる最も有効な方策は、教員ポスト増であります。現状で、400人規模の教員の人件費を確保し、各部局にフェア（公正）に配分することで、大阪大学全体の研究力を向上させると同時に、教員の職員業務負担を軽減することで、十分な研究時間を確保していただこうと考えております。さらに、2021年4月から、70歳までの就業機会の確保が努力義務となったことを踏まえ、部局によりますが、退職教授に情熱をもって講義を行っていただく特任教育教授制度も設けます。もちろんテレワーク体制も整備します。これらの方策により、労働時間の削減が可能になると考えます。部局配分の人件費の具体的な用途については、部局の裁量を尊重しながら部局との熟議を重ねて決めていきたいと考えておりますので、箕面地区については前述しましたように、非常勤講師や外国人教員の雇用ならびに非常勤職員の5年雇い止めの問題も人件費の面から解決していけると考えております。当然のことですが、私の方針は各部局の自主的な発展を支援することであり、それぞれの部局と熟議し、その課題を一つ一つ解決するための社会資源調達と環境整備を実施することで、大阪大学全体の発展につないでいくことが重要だと思っております。

とくに非常勤職員の5年雇い止めの問題は、労働契約法18条1項に無期転換申込権（有期労働契約の契約期間が5年を超えると無期契約に転換できるルール）が規定されている関係もあり、その対応は部局の事情により様々かと思えます。これについては、各部局で非常勤職員の業務実績を公正に評価したうえで、有能な方を効果的かつ安定的に雇用・育成していける体制の構築が重要だと考えています。そのためにも人件費をしっかりと確保していくことは、これからの大阪大学にとって重要な課題であると考えます。私自身もこの件で、医学部の人事において難渋した経験があります。従いまして、総長の機会をいただきましたら、この件につき各方面と相談し、適正な抜本的見直し、合理的な運用を行っていきたく思っております。

さらに、労働時間削減に向けた働き方改革については、ご指摘の三六協定違反等も含めて大学の解決すべき問題であり、私自身もこの課題につきまして附属病院で経験しております。特に、箕面地区では月に規定の45時間を超えて残業している職員が多数おられるということも聞いておりますので、隘路（ボトルネック）を熟議しながら課題解決策を検討していきます。

質問2 外国語学部、言語文化研究科、日本語日本文化教育センターの位置づけ

大阪大学において外国語学部、言語文化研究科、日本語日本文化教育センターを今後どのように位置づけていくのか、お考えがありましたらお聞かせください。

「地域に生き世界に伸びる」をモットーにする大阪大学にとって重要な課題であると認識しております。世界の言語や地域を研究する外国語学部を有する唯一の国立大学であればこそ、外国語学部の先生方には大阪大学のグローバル化を牽引していただければと思っております。グローバル化を推進するにあたって、新たにグローバル・イニシアティブを設置いたします。海外から優れた人材を雇用することは、各キャンパスをグローバル色豊かにするものと確信しております。世界の4拠点にそれぞれ常勤のブリッジ人材（Gatekeeper）を配置し、核として世界の大学と新たにネットワークを構築し、新たに創出した世界を先導する「知」と「人」による大阪大学変革OUXの価値を世界のトップランナーとともに共創していきます。私の掲げるOUXのうちの教育変革EXとして英語授業を中心に外国語授業を積極的にとり入れたグローバル人材育成教育や海外との学生交流が重要と認識しております。このような中で、外国語学部、言語文化研究科、日本語日本文化教育センターの今後の位置づけは大変重要です。人文系大学院の統合計画が進み、設置審による「しぼり」があると思いますが、それぞれの部局がどういう発展を進めていくお考えかを是非お聞かせいただき、一緒にグローバル化を推進させていただきます。部局の発展を支援するために、社会資源調達と環境整備を行うのが総長の重要な役割と考えております。私が掲げるOUXの中で、特にアーツ変革AXと教育変革EXの担い手として、キャンパスのグローバル化はもとより世界に活躍する世界的ブランドの確立に向けて、一緒に頑張らせていただければと思っております。是非とも、大阪大学のさらなるグローバル化にむけて、グローバル・イニシアティブの中核として、外国語学部、言語文化研究科、日本語日本文化教育センターの先生方のご協力とご活躍を大いに頼りにしております。

以上